

第6回 日本医師会 赤ひげ大賞

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものである。

【開催日】 平成30年2月9日(金)

表彰式 = 午後5時00分～午後6時00分
本館2階「孔雀の間 西」

レセプション = 午後6時10分～午後7時30分
本館2階「孔雀の間 南」

【場所】 帝国ホテル 東京

(東京都千代田区内幸町1-1-1)

【対象者】

- 病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会の会員及び都道府県医師会の会員で現役の医師(ただし、現職の日医・都道府県医師会役員は除く)。

【推薦方法】

- 各都道府県医師会会長が推薦(原則1名以上2名以内)

選考委員

羽毛田信吾(昭和館館長、宮内庁参与)
向井 千秋(宇宙航空研究開発機構技術参与、
東京理科大学特任副学長)
檀 ふみ(女優)
ロバート キャンベル(国文学研究資料館長)
武田 俊彦(厚生労働省医政局長)
今村 定臣(日本医師会常任理事)
道永 麻里(日本医師会常任理事)
松本 肇(産経新聞社取締役)
河合 雅司(産経新聞社論説委員)

公式ホームページにて
かかりつけ医への
応援メッセージを掲載中!



www.akahige-taishou.jp

赤い賞

受賞者のご紹介（順列は北から）

ふじ まさ みき お
藤巻 幹夫医師 (90)新潟県
藤巻医院理事

豪雪地帯で患者に向き合う90歳医師

市内でも過疎高齢化が最も進む中山間地域の特別豪雪地帯で診療に当たる。昭和34年の勤務当初は、父が外来を、自らは往診を受け持ち、雪の中を7~8時間歩き往診したこともあった。新潟県中越地震の際は自院も被害を受ける中、被災者の診察に従事、40年以上にわたり予防接種に携わる他、学校医も担い、住民の健康管理に努めている。

かわ い ふみ たけ
河井 文健医師 (77)静岡県
河井医院理事長・院長

救急医療を担うまちの頼もしい番人

地域唯一の救急告示診療所として、25年間昼夜を問わず救急医療に取り組む。交通外傷から内因性疾患まで幅広く受け入れ、2次救急を担う病院ができた後も搬送までの時間を考慮し、初期対応に尽力。検査機器の共同利用や遠隔読影等では高度な医療を提供する病院と連携し対応するなど、住民からの信頼は厚い。

つかもと まこと
塚本 眞言医師 (67)岡山県
塚本内科医院理事長・院長

住民主体の組織を立ち上げ、地域に寄り添う医療を展開

小規模多機能施設を医院に併設し、介護サービスも利用しつつ住み慣れた地域での看取りに力を入れる他、住民主体の組織「円城安心ネット」を立ち上げ、健康や福祉、生活などに関する活動を地域ぐるみで展開。また、公共交通機関が乏しい地域のため、介護タクシー事業を展開し、医療機関への送迎等、地域の高齢者の生活支援も行っている。

まつ ぼら けい いち
松原 奎一医師 (75)香川県
松原病院理事長

学校での血液検査を訴え、実現

昭和43年より地域住民の健康保持増進に貢献。病気で来院する子どもの血液に異常値が多いことに気づき、学校医をしている中学校の1年生への血液検査を自費で開始し、異常があれば保護者に助言するなど、生活習慣病のハイリスク生徒に対する保健指導に尽力した。現在では、その成果が認められ、全県下で検査が実施されている。

みず かみ ただ ひろ
水上 忠弘医師 (73)佐賀県
水上医院理事長・院長

住民の一生に関わる「かかりつけ医」

高齢化率が40%を超え、交通手段も乏しい地域で、34年間かかりつけ医として24時間体制で診療や往診を行っている。デイサービスと小規模多機能施設を開設している他、リハビリ室を無料開放。有床診療所を維持し、治療から看取りまでの一生に関わることは、住民の安心にもつながっている。また、31年間学校医も務めている。

選考委員特別賞

東日本大震災の復興は未だ道半ばである現状を忘れてはならないという
選考委員の強い思いから今回のみの特例として設置

かま だ まさと
鎌田 眞人医師 (60)宮城県
歌津八番クリニック
理事長・院長

震災の経験を基に新たな診療体制の確立に努める

地区で唯一の診療所として地域に貢献。東日本大震災では自院が全壊する中、昼夜を問わず避難所を訪れ傷病者の救命と治療に当たった。また、発災翌日より中学校体育館で医療活動を開始し、4日後には急ぎ仮設診療所を立ち上げた。自身が経験した災害医療、極限状態における医療の提供を念頭に、新たな診療体制の確立に努めている。

さ とう とおる
佐藤 徹医師 (59)宮城県
佐藤徹内科クリニック
理事長・院長

被災地支える「まちのお医者さん」

高齢化が顕著な南三陸町において、沿岸部・山間部にも訪問診療に出向くだけでなく、学校医・産業医としても献身的に尽力。東日本大震災の際には自院が全壊する中で、町内の避難所を巡回し支援を行った。半年ほど仙台市近郊で勤務医生活を送ったが、平成24年1月に再開業し、南三陸病院と連携の下、地域医療の再生に取り組んでいる。

年齢は2018年2月9日現在